

令和6年度 府立清明高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 計画段階

学校経営方針(中期経営計画)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自分を知り、人とかかわり、ポジションをとる人」を育成する。 そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒に自信を返す。 2 安心して失敗できる環境づくりを推進する。 3 「教え込む教育」から「引き出す教育」への転換を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 オンデマンドの活用や自由進度学習の試行、総合的な探究の時間の充実などにより生徒の学習意欲が高まった。今後は生徒が主体性を発揮し、学ぶ楽しさを実感できるためのさらなる工夫が求められる。 2 学校行事の内容の充実や地域連携の取組、ワーキンググループの活動の継続等により学校生活への積極的な参画が見られた。今後も主体的・協働的な活動や社会参画の機会の充実を図ることが望ましい。 3 新しいタイプの教室やチルスペースの整備等により、学習者起点による学校の魅力化が進んだ。 4 服装規定の改訂等により、個々の生徒に応じた指導の充実を図ることができた。今後もあらゆる教育活動のユニバーサルデザイン化に向け、外部連携や校内研修をより発展的に推進していくことが求められる。 5 持続可能な教育活動を実現するため、長時間労働の縮減が進んだ。「働きやすさ」や「働きがい」を感じつつ、健康や精神的な充足感を得られる職場づくりの継続が求められる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学ぶ楽しさ」を提供するため、指導と評価の工夫改善や授業のデジタルトランスフォーメーションのための研究・実践を進める。 2 サードプレイス(家庭でも学校でもない場所)の活用と探究活動の導入を発展・充実させ、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。 3 「生徒をリスペクトする」という信念を共有し、内外の評価を活用しつつ、学習者起点による学校の魅力化を図る。 4 教育活動のユニバーサルデザイン化に向けた本校ならではの手法を研究・実践する。 5 ダイバーシティとワークライフバランスに係る取組を進める。

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	学校の魅力化に係る校内組織の活動の充実	教科・分掌横断的な会議であるシン・会議を中心に、若手教職員による新しい発想を活かした事業の展開、デジタルトランスフォーメーションの推進、ティーチャーズバイブルの内容の充実を図る。		
	DE&Iの実現のための環境整備の促進	生徒や教職員の多様性を尊重し、包括的な学校文化を育成するため、DE&Iについての調査・研究を進める。		
学習支援	個別最適な教育の推進	自由進度学習とオンデマンド授業の拡大を図る。 ・推進期間を設け、全科目・講座で実施する。 ・次年度は完全に個別最適学習を行う科目を設置し、次年度『科目案内』に個別最適学習実施科目と記載して、受講登録を行う。		
	学ぶ楽しさの提供	通信教育実施による学習方法の多様化と探究的な学習の深化を図る。 ・通信教育の試行に取り組む。 ・時間や場所に縛られず、より主体的・探究的な活動ができる学習内容を教科主任会議や研修等で検討する。		
生徒支援	DE&Iの態度の育成	生徒がお互いの事情を尊重・承認し合い、他者に配慮することができる態度を育てることができるよう、DE&Iを念頭に置いた生徒主体の各種行事やイベントの企画・運営を行う。		
	学習者起点による学校の魅力化	生徒会、清明ワーキンググループのアンケートや対話を通して、校則や授業、施設・設備面等における生徒の困りごとを把握する。また、生徒・教員・保護者等が協働して多角的な議論・検討を行い、「よりよい学校づくり」を推進する。		

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路支援	進路学習のDX化	LHR進路学習や各種進路ガイダンスの説明動画を作成し、オンデマンド化を進める。				
	進路に係る情報発信の充実	TeamsやXを活用して、進路についての情報発信を行う。				
教育相談	多様な生徒が安心して生き生きと過ごせる環境の整備	情報共有のしくみを生かし、介助員やスタディアシスタントと円滑に連携する。				
	「生徒をリスペクトする」という信念を教員間で共有	ティーチャーズバイブル(実践編・資料編)等で発信する。				
総務企画	生徒主体の広報活動の充実	広報ボランティアによる、生徒の視点からの投稿を始めとして、動画やマスコットキャラクター「つばめい」を含む広報関連の作品や活動を積極的に広く公開し、本校の取組に対する関心を高めるためのユニークな広報活動を展開する。				
		YouTubeライブ等を活用した、双方向・対話型の交流イベントを複数回企画し、生徒・教職員・参加者の交流を通して、本校の魅力をダイレクトに発信する機会を設定する。				
	AIによる授業改革・業務改善	生成AIやAIAナウンサーを活用した授業改革や業務改善の方法を試行・研究し、教職員が授業や業務のDXを進める中で効果的に活用できるように情報を共有する。				
	読書活動を支援し、主体的な学びを支える学校図書館運営	学校生活の中での居場所としてだけでなく、探究活動や自主的・主体的な学びを支える「学習・情報センター」としての機能の充実を図る。				
年次	F年次 学びやすい環境の提供	登校しやすい環境を作るために、多様な生徒の実態を加味し、総合的な探究の時間や特別活動、フレスタ等の授業の参加形態や取り組み内容を工夫する。				
	M年次 自己認知の醸成と多様な学習機会の提供	特別活動や総合的な探究の時間、学校行事等において、自分の個性や獲得した知識・技能を生かしつつ、人と協働しながら取り組む活動の機会を設定する。				
	S年次 自分の役割をみつける機会の提供	学校行事やフレスタプラス、LHRを通して、地域の人に関わることにより、多様な考えに触れ、積極的に社会に関わる機会を設定する。				
	G年次 希望進路を実現するために挑戦する力の育成と支援	これまでの学校生活で獲得した力を生かし、様々な場面において挑戦を促しつつ、希望進路を実現するための情報提供を通じてきめ細やかな支援を行う。				
事務部	学ぶ楽しさを実感し、安心していきいきと学べる教育環境の整備	教科分掌と連携し、生徒1人1人が落ち着くことができる環境の整備やICT機器等の設備更新を行う。				
(評価の基準 A: 十分達成できた B: ほぼ達成できた C: あまり達成できなかった D: ほとんど達成できなかった)						